

6. 社会・経済条件の現況等の調査

- 1) 人口
- 2) 産業
- 3) 交通
- 4) 都市施設

1) 人口

(1) 人口・世帯数の推移

国勢調査によると、令和2年の総人口は28,919人、平成27年と比較して174人(0.6%)の減少し、世帯数は11,265世帯、平成27年と比較して1,021世帯の増加となっている。人口は減少し、世帯数は増加した結果、1世帯当たりの平均人数は2.57人となった。

D. I. D人口は、平成22年までは増加傾向にあったが、これ以降は減少に転じている。

住民基本台帳でも平成29年以降人口は緩やかに減少を続け、世帯数は緩やかに増加し、1世帯当たりの平均人数は2.51人となった。

人口・世帯数及びD. I. Dの推移

区分	人口		世帯数		D. I. D		
	総数(人)	増加率(%)	総数(世帯)	1世帯当たりの人数	面積(km ²)	人口(人)	密度(人/km ²)
平成12年	27,492	3.8	8,282	3.32	1.27	6,149	4,841.7
平成17年	28,648	4.2	9,166	3.13	1.66	7,536	4,539.8
平成22年	29,815	4.1	10,253	2.91	1.75	8,185	4,677.1
平成27年	29,093	△2.4	10,244	2.84	1.75	7,654	4,373.7
令和2年	28,919	△0.6	11,265	2.57	1.85	7,530	4,070.3

資料：国勢調査

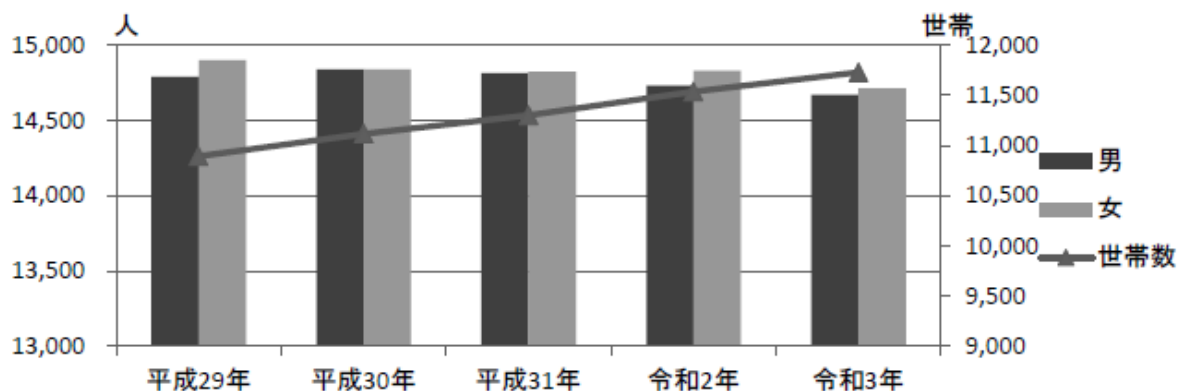
人口世帯数の推移

各年3月31日現在

区分	人口(人)				世帯数(世帯)	1世帯当たりの人員	外国人登録人口
	男	女	計	増加率(%)			
平成29年	14,790	14,901	29,691	△0.04	10,893	2.73	1,432
平成30年	14,839	14,840	29,679	△0.04	11,117	2.67	1,432
令和元年	14,813	17,823	29,636	△0.14	11,301	2.62	1,430
令和2年	14,731	14,828	29,559	△0.26	11,537	2.56	1,426
令和3年	14,670	14,712	29,382	△0.60	11,728	2.51	1,417

資料：令和4年版吉田町統計要覧（住民基本台帳）

※住民基本台帳人口及び世帯数は外国人人口を含む



資料：令和4年版吉田町統計要覧（住民基本台帳）

年齢階級別人口

単位：人

区分	総数	年少人口 (0～14歳)	生産人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	不詳
平成12年	27,492	4,663	18,320	4,496	13
平成17年	28,648	4,532	18,758	5,358	-
平成22年	29,815	4,492	18,779	5,993	551
平成27年	29,093	4,216	17,672	6,924	281
令和2年	28,919	3,691	17,739	7,489	-

資料：国勢調査

(2) 人口動態

人口動態の推移は、自然動態（出生・死亡）が平成29年以降、一貫して減少傾向にあり、社会動態（転入・転出）が、令和2年から減少に転じている。そのため、令和2年以降の人口減少数が大きくなり、令和3年には272人の人口減少となっている。

人口動態（自然・社会）の推移

単位：人

区分	自然動態			社会動態			その他の増減	人口増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減		
平成29年	228	281	△53	1,454	1,390	64	△20	△9
平成30年	222	274	△52	1,563	1,512	51	△42	△43
令和元年	205	320	△115	1,513	1,450	63	△25	△77
令和2年	205	315	△110	1,287	1,302	△15	△52	△177
令和3年	188	295	△107	1,023	1,162	△139	△26	△272

資料：令和4年版吉田町統計要覧（住民基本台帳）

(3) 昼間・夜間人口の推移

昼間人口と夜間人口に大きな差は見られないが、常住人口（夜間人口）より昼間人口の方が多。流入人口は平成12年以降増加しており、流出人口も微増している。令和2年の流出入の差は、1,358人と流入人口の方が多くなっている。

昼間・夜間人口の推移

単位：人

区分	常住人口 (夜間人口) a	流入人口 b	流出人口 c	流出入の差 b - c	昼間人口 d	昼間人口指数 d/a
平成12年	27,479	8,455	7,105	1,350	28,829	1.05
平成17年	28,648	9,539	7,796	1,743	30,391	1.06
平成22年	29,815	9,702	8,278	1,424	31,239	1.05
平成27年	29,093	9,733	8,566	1,167	30,260	1.04
令和2年	28,919	10,254	8,896	1,358	30,277	1.05

資料：国勢調査

6. 社会・経済条件の現況等の調査

(4) 通勤通学人口の概要

15歳以上の通勤通学地別人口では、本町に常住する就業・通学者 16,743 人の内、8,255 人が町内で従業・通学している。また、本町で従業・通学する者 18,234 人の内、半数以上の 9,598 人が他市町村から従業・通学している。

15歳以上通勤・通学地別流出人口（吉田町から他市町村へ） 単位：人

区分	総数	通勤者	通学者
当地に常住する就業・通学者	16,743	15,671	1,072
町内で従業・通学	8,255	8,074	181
他市町村で従業・通学	8,189	7,319	870
牧之原市	2,753	2,566	187
焼津市	1,562	1,428	134
島田市	1,369	1,215	154
藤枝市	800	699	101
静岡市	713	545	168
御前崎市	181	181	0
菊川市	162	143	19
その他	446	402	44
県外で従業・通学	121	78	43

資料：国勢調査（令和2年）

15歳以上通勤・通学地別流入人口（他市町村から吉田町へ） 単位：人

区分	総数	通勤者	通学者
当地で従業・通学する者	18,234	17,913	321
町内に常住	8,255	8,074	181
他市町村に常住	9,598	9,499	99
牧之原市	2,048	2,019	29
焼津市	2,450	2,430	20
島田市	2,060	2,028	32
藤枝市	1,839	1,835	4
静岡市	597	597	0
御前崎市	184	175	9
菊川市	126	123	3
その他	228	227	1
県外に常住	66	65	1

資料：国勢調査（令和2年）

(5) 地区別人口・世帯数の推移

地区別人口・世帯数の推移では、北区の人口が増加傾向にある一方、住吉地区、川尻地区の人口が減少傾向にある。また、片岡地区の人口は令和2年に増加しているが長期的にみて減少傾向にある。世帯数は各地区とも微増傾向にある。

町内会別人口・世帯数の推移

各年3月31日現在

区分	平成29年		平成30年		平成31年		令和2年		令和3年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
住吉	10,409	3,783	10,387	3,846	10,344	3,912	10,235	3,993	10,074	4,013
上組	1,377	518	1,403	538	1,426	555	1,431	573	1,407	581
東村	1,754	622	1,748	630	1,767	622	1,781	649	1,768	658
森下	539	192	529	193	508	192	505	195	488	194
山八	1,509	555	1,508	562	1,483	563	1,453	581	1,421	579
新田	1,732	697	1,722	701	1,721	723	1,714	734	1,684	723
西浜	1,522	516	1,508	524	1,492	545	1,453	539	1,414	529
東浜	1,320	466	1,305	468	1,311	483	1,270	477	1,251	479
大浜	656	217	664	230	636	229	628	245	641	270
川尻	6,325	2,348	6,306	2,409	6,220	2,422	6,169	2,458	6,113	2,511
上組	2,311	897	2,325	932	2,367	946	2,346	961	2,336	969
山通り	1,911	691	1,896	714	1,806	699	1,819	715	1,780	737
東組	911	333	900	330	877	336	863	341	872	361
西組	1,192	427	1,185	433	1,170	441	1,141	441	1,125	444
片岡	5,837	2,072	5,825	2,114	5,804	2,134	5,844	2,214	5,793	2,215
西	1,178	431	1,167	441	1,160	446	1,150	459	1,138	456
東	1,771	707	1,769	722	1,752	717	1,773	722	1,771	732
下	2,888	934	2,889	951	2,892	971	2,921	1,033	2,884	1,027
北区	7,120	2,690	7,161	2,748	7,268	2,833	7,311	2,872	7,402	2,989
第1	1,763	642	1,802	681	1,792	672	1,785	673	1,809	691
第2	2,075	845	2,115	866	2,167	900	2,166	900	2,185	934
第3	1,420	549	1,390	543	1,427	584	1,469	610	1,461	616
第5	1,862	654	1,854	543	1,882	677	1,891	689	1,947	748
総数	29,691	10,893	29,679	11,117	29,636	11,301	29,559	11,537	29,382	11,728

資料：令和4年版吉田町統計要覧（住民基本台帳）

(6) 就業人口の推移

①労働力状態別就業人口の推移

労働力状態別就業人口の推移をみると、就業者総数は16,000人前後で推移している。近年では、平成22年をピークに微減傾向にある。

労働力状態別就業人口の推移（15歳以上）

単位：人

区分	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
15歳以上の総数	22,816	24,116	24,772	24,596	25,058
労働力総数	15,826	16,517	16,855	16,496	16,208
就業者総数	15,290	15,890	16,095	15,932	15,671
主に仕事	13,248	13,551	13,798	13,637	13,663
家事のほか仕事	1,767	2,040	1,944	1,983	1,548
通学のかたわら仕事	59	83	103	74	120
休業者	216	216	250	238	340
完全失業者	536	627	760	564	537
非労働力	6,951	7,415	7,687	7,934	7,262

資料：国勢調査

②産業別就業人口の推移

産業別就業人口の推移をみると、第1次産業の就業人口は減少傾向にある。第2次の就業人口は減少傾向にあったが令和2年に微増している。また、第3次産業の就業人口は増加傾向にあったが、令和2年に減少に転じている。

産業分類別にみると、第2次産業では「製造業」、第3次産業では「不動産業」「公務員」の就業人口が平成27年から令和2年にかけて増加している。

産業別就業人口及び産業大分類別就業人口

単位：人

区分	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
第1次産業	811	746	621	581	499
農業	553	496	418	402	346
林業	3	1	3	2	1
漁業・水産業・養殖業	255	249	200	177	152
第2次産業	7,975	7,700	7,642	7,412	7,422
鉱業	17	7	6	6	1
建設業	1,313	1,240	1,193	1,135	1,030
製造業	6,645	6,453	6,443	6,271	6,391
第3次産業	6,479	7,360	7,499	7,607	7,407
電気・ガス・水道・熱供給業	63	51	55	55	51
運輸・通信業	995	1,061	1,219	1,248	1,202
卸売業・小売業	2,345	2,099	2,047	1,891	1,778
金融・保険業	207	185	194	178	168
不動産業	58	66	158	151	173
サービス業	2,560	3,620	3,531	3,785	3,723
公務	251	278	295	299	314
分類不能の産業	25	84	333	332	343
総数	15,290	15,890	16,095	15,932	15,671

資料：国勢調査

2) 産業

(1) 農業

① 農家数

農家数の推移は、減少傾向にある。また、経営耕地規模別農家数の推移を見ると、3.0ha 以上の農家数が増加傾向にあり、一部農家の経営耕地規模の拡大化傾向がみられる。

経営耕地規模が 3.0ha 未満の農家数は減少傾向にある。

農家数の推移

区分	農家数					
	専業農家	第1種兼業	第2種兼業	主業	準主業	副業
平成12年	313	41	71	201	-	-
平成17年	254	48	63	143	-	-
平成22年	208	49	44	115	-	-
平成27年	170	53	25	92	43	30
令和2年	136	-	-	-	40	11

資料：農林業センサス

※販売農家のみ。

※第1種兼業農家…主な所得を農業から得ている兼業農家。

※第2種兼業農家…農業ではない仕事からの所得が主となっている兼業農家。

※主業農家…農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家。

※準主業農家…農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家。

※副業的農家…調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない農家（主業農家及び準主業農家以外の農家）。

経営耕地規模別農家数の推移

区分	総数	例外規定	0.3ha未満	0.3～0.5ha	0.5～1.0ha	1.0～1.5ha	1.5～2.0ha	2.0～3.0ha	3.0ha以上
平成12年	605	1	296	123	107	40	14	15	9
平成17年	254	-	2	95	85	31	17	16	8
平成22年	208	-	2	66	79	23	14	14	11
平成27年	170	-	1	44	67	16	15	11	16
令和2年	139	-	1	45	46	13	8	8	17

資料：農林業センサス

※平成12年は総農家、平成17年以降については、販売農家のみ

6. 社会・経済条件の現況等の調査

②耕地面積

耕地面積は、田、畑、樹園地別に見ると、田と樹園地が特に減少している。

畑の耕地面積は増加傾向にある。

経営耕地面積

区分	平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年	
	農家数	面積 (a)	農家数	面積 (a)	農家数	面積 (a)
田	198	16,570	164	16,761	131	15,217
畑	49	584	52	1,053	30	1,701
樹園地	98	3,986	58	2,685	32	1,284
経営耕地面積 (合計)	208	21,140	170	20,522	138	18,202

資料：農林業センサス

※販売農家のみ

(2) 漁業・水産業

①内水面漁業

うなぎ養殖業の推移は、組合取扱数量において、平成 28 年より減少が継続しており、町内の取扱高（販売）は令和 2 年に大きく減少しているが、令和 3 年には増加に転じている。

うなぎ養殖業の推移（静岡うなぎ漁業協同組合）

総数	経営体数	組合取扱高（販売）	
		数量 (t)	金額 (千円)
平成 28 年	17 (10)	518 (195)	2,132,023
平成 29 年	17 (10)	516 (208)	1,746,265
平成 30 年	17 (10)	470 (209)	1,889,355
令和元年	18 (11)	436 (202)	1,899,044
令和 2 年	17 (10)	319 (89)	1,431,891
令和 3 年	16 (8)	439 (172)	1,549,857

資料：産業課、静岡うなぎ漁協

※（ ）は町内の値。

※各年の期間は 9 月 1 日から翌年 8 月 31 日を示す。

②海面漁業

漁業経営体数・漁業従事者数・漁船総数は、平成 15 年から減少傾向となっている。

漁業経営体数・従事者数・漁船数（各年 11 月 1 日現在）

	漁業経営体数			漁業従事数(人)			漁船総数
	総数	個人	団体	総数	自営	雇われ	
平成 15 年	48	48	—	191	60	131	92
平成 20 年	35	35	—	222	56	166	81
平成 25 年	30	30	—	194	41	153	71
平成 30 年	24	24	—	147	29	118	61

資料：漁業センサス

(3) 事業所

①事業所数・従業者数の推移（産業大分類別）

事業所数は、第2次産業が減少傾向にある。第3次産業は平成24年に大きく減少している。従業者数は、第2次産業において平成24年まで増加、その後減少している。第3次産業においては事業所数と同じく平成24年に大きく減少している。

事業所数の推移

単位：人

区分	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
平成18年	1,375	1	481	893
平成21年	1,379	3	482	894
平成24年	1,280	3	461	816
平成26年	1,320	3	458	859
平成28年	1,253	2	434	817

資料：事業所・企業統計調査、経済センサス・基礎調査、経済センサス・活動調査

従業者数の推移

単位：人

区分	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
平成18年	15,946	3	8,095	7,848
平成21年	17,142	17	9,151	7,974
平成24年	16,513	18	9,569	6,926
平成26年	17,091	17	9,080	7,994
平成28年	16,174	10	8,815	7,349

資料：事業所・企業統計調査、経済センサス・基礎調査、経済センサス・活動調査

②従業者規模別事業所及び従業者数

従業者規模別事業所数は、1～4人規模が最も多く701事業所が存在し、1,534人が従業している。従業者数では100人以上の事業所が最も多く5,794人が従業している。

従業者規模別事業所及び従業者数

単位：人

区分	総数	1～4人	5～9人	10～29人	30～49人	50～99人	100人以上
事業所数	1,252	701	234	228	35	32	22
従業者数	16,174	1,534	1,554	3,733	1,319	2,240	5,794

資料：経済センサス・活動調査

※出向・派遣従業者のみの事業所は内訳に含まない。

6. 社会・経済条件の現況等の調査

(4) 商業

事業所数・従業者数の推移は減少傾向にある。年間販売額等は、平成14年に大きく減少し、その後は横ばいで推移している。売場面積も平成14年に大きく減少し、その後は横ばいで推移している。

事業所数・従業者数・年間販売額等の推移

区分	事業所数	従業者数 (人)	年間商品 販売額 (百万円)	その他の 収入額 (百万円)	商品手持額 (百万円)	売場面積 (㎡)
平成9年	345	2,179	83,833	1,706	4,940	32,084
平成14年	324	2,083	51,748	2,009	3,319	26,327
平成19年	305	2,304	59,918	1,218	3,017	34,616
平成26年	220	1,631	59,268	—	—	31,656
平成28年	241	1,790	59,281	—	—	34,312
卸売業	65	521	37,553	—	—	—
小売業	176	1,269	21,728	—	—	34,312

資料：商業統計調査、経済センサス-活動調査

※平成26年7月1日、その他各年6月1日

(5) 工業

事業所数、原材料使用額等、製造品出荷額等については平成27年をピークに減少傾向にある。従業者数及び現金給与総額は、平成27年以降横ばい傾向にあるが、平成29年から30年にかけて減少している。

事業所数・従業者数・現金給与総額・原材料使用額・製造品出荷額等の推移

区分	事業所数	従業者数 (人)	現金給与 総額 (百万円)	原材料 使用額等 (百万円)	製造品 出荷額等 (百万円)
平成26年	130	6,998	29,472	118,258	221,574
平成27年	150	8,073	34,352	168,540	288,417
平成28年	131	8,055	33,872	152,509	278,543
平成29年	126	8,081	34,699	148,182	282,027
平成30年	128	7,870	34,029	143,525	276,258
令和元年	133	7,752	33,842	139,886	274,618

資料：工業統計調査、経済センサス-活動調査

※平成25年～平成27年は12月31日、平成28年～平成30年は6月1日現在で調査。

(6) 観光

観光入込客数の推移について、宿泊客数は令和2年まで増加または横ばいで推移していたが、令和3年に落ち込んでいる。観光レクリエーション客数及び、観光交流客数ともに、令和3年に大きく落ち込んでいる。これは新型コロナウイルスの感染症拡大による影響が大きいと考えられる。

観光入込客数の推移

単位：人

区分	宿泊客数	観光レクリエーション客数	観光交流客数
平成29年	21,349	275,267	296,616
平成30年	20,961	275,685	296,646
令和元年	26,168	259,923	286,091
令和2年	26,168	259,926	286,094
令和3年	20,041	148,256	168,297

資料：吉田町資料

※宿泊客数…旅館・ホテル・民宿等に宿泊した客数（延べ泊数）

※観光レクリエーション客数…観光施設、スポーツレクリエーション施設、行祭事及びイベント等への入場者・参加者等

※観光交流客数…宿泊客数及び観光レクリエーション客数の合計

3) 交通

(1) 道路整備状況

道路現況について、高速自動車国道、一般国道、主要地方道、一般県道の改良率は 100.0% となっており、町道が、改良率 73.8%、舗装率 93.7%となっている。

道路現況

道路種別	路線数	実延長 (m)	改良済 (m)	改良率 (%)	舗装済 (m)	舗装率 (%)
高速自動車国道	1	2,124	2,124	100.0	2,124	100.0
一般国道	1	5,742	5,742	100.0	5,742	100.0
主要地方道	3	13,465	13,465	100.0	13,465	100.0
一般県道	2	4,417	4,417	100.0	4,417	100.0
町道	840	236,463	174,437	73.8	221,595	93.7

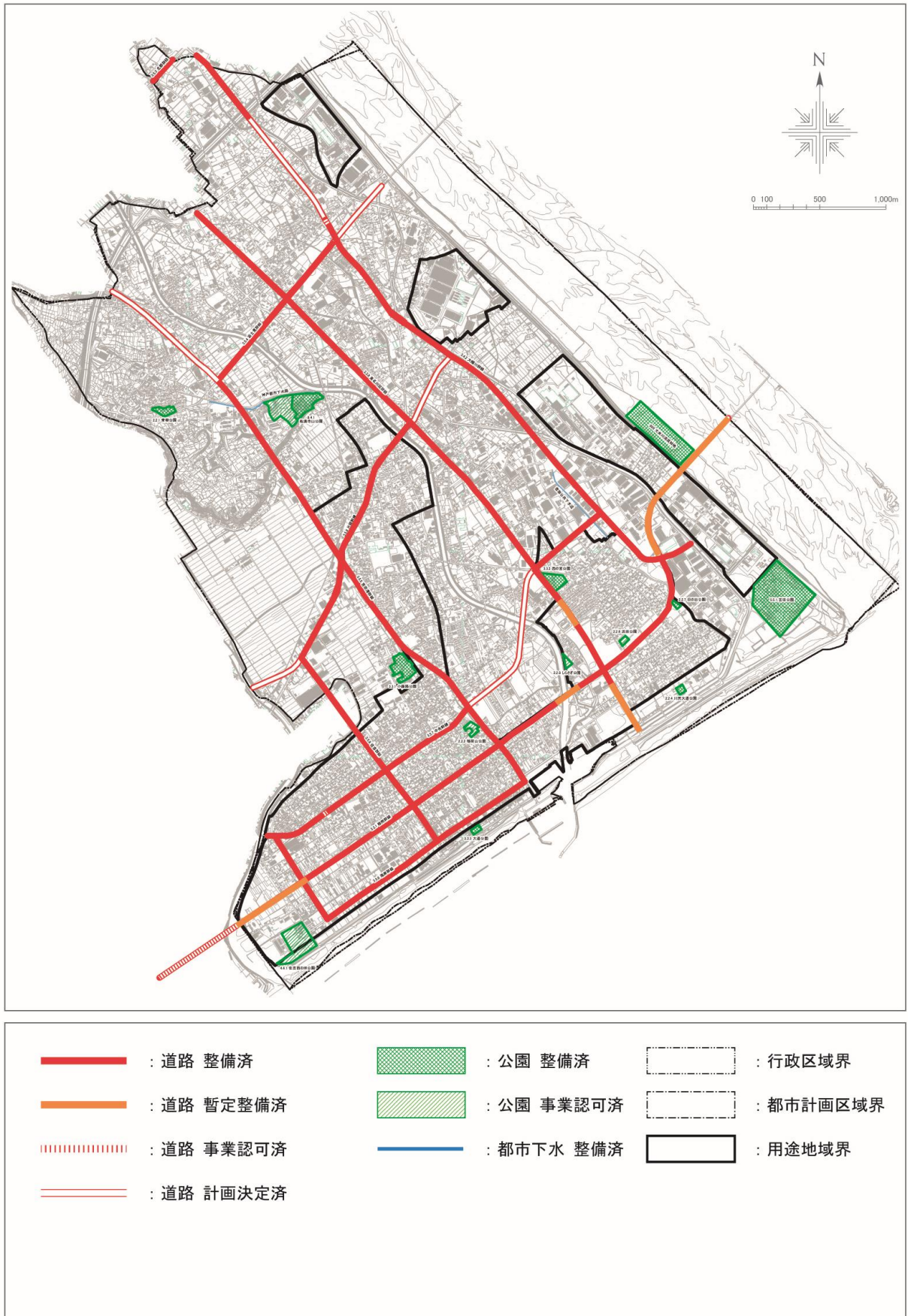
資料：静岡県道路現況調査（令和3年4月1日現在）

都市計画道路

名称	指定年月日		幅員 (m)	延長 (m)	備考
	当初	最終			
3・3・1 榛南幹線	S42.11.13	H16.3.23	25	5,570	3,910m改良済
3・4・2 大幡川幹線	S40.7.15	S61.9.30	16	5,330	2,570m改良済
3・3・3 北部幹線	S40.7.15	H13.12.14	27	230	230m改良済
3・5・4 富士見幹線	S40.7.15	S59.10.1	12	2,900	930m改良済
3・5・5 吉田港幹線	S42.11.13	H4.3.31	12	3,930	3,930m改良済
3・5・6 海岸幹線	S42.11.13	H4.3.31	12	2,750	2,750m改良済
3・5・7 中央幹線	S42.11.13	S63.10.1	12	4,490	2,340m改良済
3・5・10 住吉幹線	S42.11.13	S63.10.1	12	1,450	1,220m改良済
3・3・8 東名川尻幹線	S59.10.1	H4.3.31	22	5,280	4,640m改良済
3・5・9 片岡幹線	S59.10.1	S59.10.1	12	2,900	1,800m改良済

資料：静岡県の都市計画（令和3年）

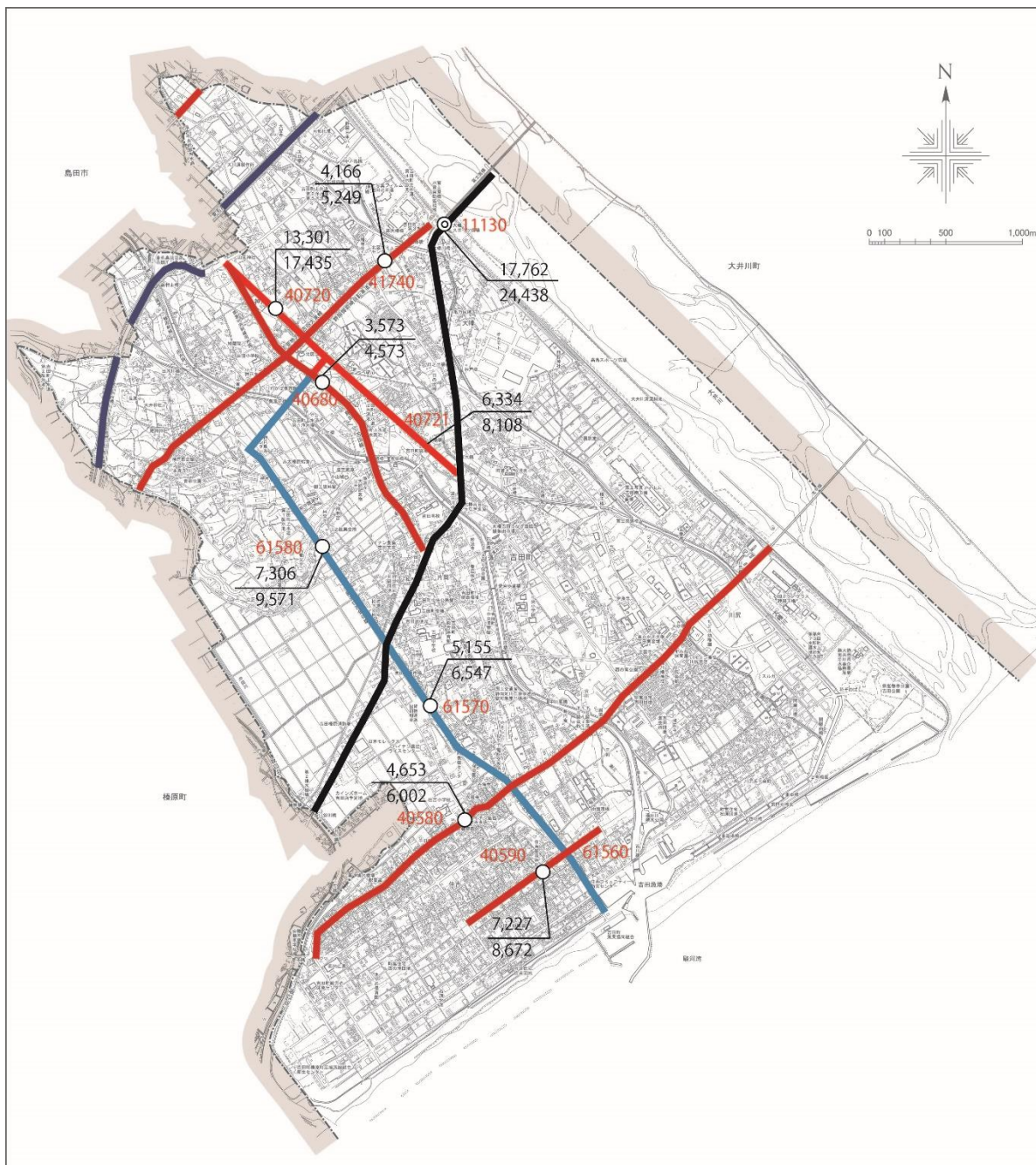
都市施設の整備状況図



資料：令和3年度榛南・南遠広域都市計画区域都市計画基礎調査

(2) 交通量

平成 27 年度の主要な道路の交通量(昼間 12 時間の交通量・24 時間の交通量)を下図に示す。



	: 高速自動車国道		: 交通量観測地点 (24時間)		: 用途地域界
	: 一般国道		: 交通量観測地点 (12時間)		: 行政界
	: 主要地方道	40590	: 交通量調査単位区間番号		
	: 一般県道	1,542	: 上段: 昼間12H		
		2,020	: 下段: 24H		
		※数値は推計値を含む			

資料 : 平成 27 年度 全国道路・街路交通情勢調査

(3) 運輸・通信

①自動車保有台数の推移

自動車保有台数は、平成29年以降横這い傾向にある。その中で準乗用車、軽自動車、小型特殊自動車が微増傾向にある。

自動車保有台数

単位：台

区分	総数	乗用車	準乗用車	トラック等	軽自動車	二輪車	小型特殊自動車
平成29年	25,397	9,934	429	1,324	10,768	2,622	320
平成30年	25,428	9,948	430	1,332	10,896	2,495	327
平成31年 (令和元年)	25,583	10,015	433	1,325	10,996	2,474	340
令和2年	25,590	9,958	437	1,324	11,110	2,405	356
令和3年	25,621	9,960	448	1,328	11,125	2,402	358
令和4年	25,665	9,962	466	1,327	11,115	2,427	368

資料：静岡県の自動車保有台数 各年4月1日現在

※準乗用車…貨客兼用の普通自動車、小型自動車で乗用車に準ずるもの。

※トラック等…トラック、トレーラ、バス、三輪車、特種用途自動車及び大型特殊自動車。

②東名高速道路インターチェンジ別交通量の推移

東名高速道路吉田インターチェンジの総交通量は減少傾向にあり、令和2年には3,769,458台となっている。特に、令和元年から令和2年にかけては吉田インターチェンジを含めた全てのインターチェンジで著しく減少している。

東名高速道路インターチェンジ別平均交通量

単位：台

区分	吉田		焼津		大井川焼津藤枝 スマート		静岡	
	総交通量	1日平均	総交通量	1日平均	総交通量	1日平均	総交通量	1日平均
平成27年	5,479,015	14,970	5,535,654	15,125	88,717	4,436	9,455,481	25,835
平成28年	4,484,169	12,285	5,160,153	14,137	1,999,272	5,477	9,502,580	26,034
平成29年	4,436,805	12,156	5,232,410	14,335	2,451,603	6,717	9,594,518	26,286
平成30年	4,425,849	12,126	5,204,685	14,259	2,682,944	7,351	9,569,998	26,219
令和元年	4,350,633	11,887	5,213,097	14,243	2,817,146	7,697	8,334,754	22,773
令和2年	3,769,458	10,327	4,648,737	12,736	2,632,536	7,212	6,066,070	16,619

区分	相良牧之原		菊川		浜松	
	総交通量	1日平均	総交通量	1日平均	総交通量	1日平均
平成27年	2,946,593	8,051	2,270,135	6,203	8,017,719	21,906
平成28年	3,044,052	8,340	2,304,604	6,314	7,925,623	21,714
平成29年	3,140,678	8,605	2,296,936	6,293	7,738,830	21,202
平成30年	3,147,344	8,623	2,336,488	6,401	7,786,939	21,334
令和元年	3,183,746	8,699	2,325,270	6,383	7,723,080	21,101
令和2年	2,778,076	7,611	2,004,657	5,492	6,561,737	17,977

資料：中日本高速道路株式会社

4) 都市施設

(1) 都市計画道路

都市計画道路は、北部幹線、吉田港幹線、海岸幹線の3道路が供用率100%となっている。

都市計画道路整備状況

番号	名称	計画決定 (m)		改良済延長 (m)	供用率 (%)
	路線名	幅員	延長		
3・3・1	榛南幹線	25	5,570	3,910	70.2
3・4・2	大幡川幹線	16	5,330	2,570	46.5
3・3・3	北部幹線	27	230	230	100.0
3・5・4	富士見幹線	12	2,900	930	32.1
3・5・5	吉田港幹線	12	3,930	3,930	100.0
3・5・6	海岸幹線	12	2,750	2,750	100.0
3・5・7	中央幹線	12	4,490	2,340	52.1
3・5・10	住吉幹線	12	1,450	1,220	84.1
3・3・8	東名川尻幹線	22	5,280	4,640	87.7
3・5・9	片岡幹線	12	2,900	1,800	62.1
計	—	—	34,830	24,320	69.8

資料：静岡県の都市計画（令和3年）

(2) 公園・緑地

都市計画公園・都市計画緑地の整備状況では、青柳公園、大道公園、川尻大道公園及び、西の宮公園が開設率 100%となっており、その他は整備中である。

都市計画公園・都市計画緑地整備状況

種別	名称		計画決定 面積 (ha)	共用面積 (ha)	共用率 (%)
	番号	公園名			
街区公園	2・2・1	青柳公園	0.55	0.55	100.0
	2・2・2	稻荷山公園	0.53	0.00	0.0
	2・2・3	大道公園	0.26	0.26	100.0
	2・2・4	川尻大道公園	0.28	0.28	100.0
	2・2・5	浜田公園	0.26	0.00	0.0
	2・2・6	日の出公園	0.22	0.00	0.0
	2・2・7	しらさぎ公園	0.23	0.00	0.0
近隣公園	3・3・1	小藤路公園	2.40	2.10	87.5
	3・3・2	西の宮公園	1.50	1.50	100.0
地区公園	4・4・1	住吉西の坪公園	4.50	0.00	0.0
総合公園	5・5・1	吉田公園	31.50	14.30	45.4
特殊公園	8・4・1	能満寺山公園	5.90	2.00	33.9
計		—	48.13	20.99	43.6
都市計画緑地	1	大井川清流緑地	148.70	17.00	11.4

資料：静岡県の都市計画（令和3年）

6. 社会・経済条件の現況等の調査